

総務文教委員会記録

令和元年 8 月 1 日（木）
10 時 02 分～11 時 13 分
第 1 委員会室

（委員）野藤委員長、小川副委員長
沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、~~西田委員~~
（議長・委員外議員）
（総務文教委員会 所管管理職）出席者なし
（事務局）篠原書記

議 題

1 政策討論会について

「高齢者の移動手段の確保」

2 その他

8 月 2 日 全員協議会終了後、最終打ち合わせ

【以下詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開 議 10 時 02 分)

野藤委員長

議員研修がある中、午前中に招集をかけたが、ご参加いただき感謝する。政策討論会が来週月曜にあるので、一応起案書のようなものを出すのだが、それに基づいた具体的な説明資料を、パワーポイントを作ってPDFで皆さんに配布した。それを見てのご意見をいただきたい。

なお西田委員は本日所用のため欠席と聞いている。沖田委員は少し遅れるとのこと。よろしくお願いします。

パワーポイントではないのだが結構大きかった。最初に送ったのが議会……最後は島根。

篠原次長

今はLGになっているので。届いてなかったのだと思う。

1 政策討論会について 「高齢者の移動手段の確保」

野藤委員長

産業もPDFになっているらしい。

篠原次長

意見を言っていただければ書き込みするので。よろしければ少し熟読の時間を取っていただいた方が良いかもしれない。

西川委員

討論会の時にこれを持って入って、委員長が操作するのか。

篠原次長

プレゼンされる方も今日決めていただけると。委員長が必ずしなければならぬとはなっていないので。時間は15分以内。

野藤委員長

20分まで資料熟読の時間を設ける。

佐々木委員

討議する点というのは、討論会に出ている人ということか。

野藤委員長

はい、皆さんに事前配布している提案書の中に、討論する点も提出してある。それを3点挙げてやろうと。

篠原次長

政策討論会に討論会というフォルダがある。その中に各委員会から提出された提案書を入れてある。今日ここで決めたものも、そこに入れる。月曜までに熟読をお願いするメールを事務局から送らせていただこうと思う。

《 熟読タイム 》

野藤委員長

免許を持ってない人が9千8百何十人と出ている。

道下委員

免許を持ってない人が4千人とする。

野藤委員長

はい。想定される。

道下委員
野藤委員長

現在の半数といえはやけに少ない。

全体のボリュームが下がっているから。人口減少で。

結局、これは説明しなければいけないのだが、2030年度の推計と人口推計、浜田市の推計は創生計画なので人口推計が出ている。4万9千人から低い所は4万6千人程度の推計が出ているが、65歳以上の高齢化率が37パーセント、それをかけると65歳以上の高齢者が1万8千人。推計が出ていたので、今は9,800人。高齢者は車の免許自体を取ったことがないとか、元々持っていない人が9800人超と出る。2028年には4千人という推計が出ている。ということは、高齢者の推計値1万8千人から……これは推計だから、推計人数4千人減らすと、1万8千人以上の方が乗っていないという推計値を引くと1万4千人くらいの方が免許を持っている、ということは車があるだろうと予想すると。

道下委員
野藤委員長
道下委員
野藤委員長

意味が分からない。

推計値の根拠が何かと言われたら分からないが。

これを皆さんに説明する必要があるのか。

私も最初は意味が分からなかった。でも公共交通のあれに書いてある。グラフがあって。意味は分からないけど免許を持ってない人が半減するということは、こういう利用は減るだろうという想定なのだ。免許を持っておきたい人が増えている。

今は例えば80代、90代は車の免許を最初から持ってない人が結構いる。

永見委員

だから最初から車の免許を持ってない人が4千人、免許を返納した人も含めてのではなくて。

野藤委員長

一番免許を取っているであろう年代が上がっていくので。私も分かりにくい説明だと思う。

高齢者の移動手段の確保における自助と言え、自分がやるか家族がやるかしかない。自助・共助・公助の範囲と出して出るので、少し苦しい説明だがこれしかないと思って引っ張ってきた。

道下委員
野藤委員長
佐々木委員

しかしこれは説明が苦しいのでは。

苦しくない方法を教えてくれ。

これはこれで良いのだろうが、分かりやすいものを執行部に聞

	いたらどうか。
野藤委員長	出所は書けば良いのだが。
佐々木委員	免許非保有者というのは、持っているのを止めた者が含まれるかというのが色々あるから、元々持っていない……。
野藤委員長	その推計を出した所に聞かないといけない。
佐々木委員	作っていないから分からない。現在の半数とあるが、現在とは何かもよく分からない。現在の半数で自家用車の……。
野藤委員長	それが全部小さくなると思ったから。
佐々木委員	増加するということか。
野藤委員長	現在 9800 人だが、それは数字を挙げて説明せねばならないのだが。
道下委員	これ現在の半数というのは免許非保有者が、か。
野藤委員長	現在は免許の非保有者が多い。9800 人以上で推計してある。
佐々木委員	このデータを作った人に聞かないと分からない。
永見委員	それで 2028 年には 4 千人だから約半数になるという意味か。
佐々木委員	これはつながっているのか。
沖田委員	すみません、遅くなった。
道下委員	免許を持ってない人は今の 9 千から 4 千になる。なるからどうなのか。
佐々木委員	簡単に言えば、免許を持ってない人が増えることを言いたいのか。
野藤委員長	免許を持ってない人が減る。中山間地にいて交通手段がないということから免許を持っている高齢者が増えるということ。
佐々木委員	なるほど。
道下委員	それを書けば良いのでは。その方が分かりやすい。
佐々木委員	言葉が割愛され過ぎて。
野藤委員長	ここに詳しく書くより説明した方が良いと思ってこうした。
佐々木委員	意味が分かっているなら良い。意味が分からずに載せているのでないなら。
道下委員	免許を持つ高齢者が増えていくということだな。
野藤委員長	2018 年の高齢者の免許非保有率が 9800 人と出ている。10 年度には非保有者が 4000 人と半減するとある。高齢化率や人口を見ると下振れが 4500 人で上振れが 4900 人くらい。高齢化率は 37%。

道下委員
野藤委員長

今は。

36%。その辺から一気に上がる。人口推計と高齢化率をかけて、2030 年の数字がないが、約 1 万 4 千人。2028 年に免許非保有者が 4000 人と想定される。その想定がどこから来ているかを調べた。

西川委員
野藤委員長

4600 とある。

見間違えた。1 万 3 千人としても増える。自分で動く人が増える。ここは説明した方が良いかもしれない。高齢者自体は増えるが人口推計でいっても免許を持っている高齢者は逆に増える。その原因は、中山間にお住まいの方などは特に免許がないと生活に困るから。公共交通は使わない。

使いやすい公共交通があれば免許返納は増えるだろうという所へ落とし込むしかない。

道下委員
野藤委員長

運転手確保が一番の問題。

八女市のものをあれすれば。自分で確保すること、地域で確保することはない。小さいエリアの中で、それは難しい。

佐々木委員

それは無理な話で、人が変わったら終わり。八女市のように市が中心になってやるくらいのことをしないと、どこかの町内に丸投げでは無理だろう。

野藤委員長

自治会自体の規模が小さいので、車を提供したとしてもその瞬間できるが。

佐々木委員
野藤委員長

継続できないと駄目。半年から 1 年程度しかもたないだろう。

ある程度仕組みがきちんとできていると、利用者が少ないと言っても利用するようになる。旭にしても 2 便と 1 便しかない。これで利用が少ないと言ったって当たり前の話。

佐々木委員

八女市は 2 万人の高齢者のうち 1 万人が登録している。市長が公共交通を電気や水道のようなライフラインと位置づけてやったから皆が利用する。

野藤委員長

資料は敲き台。この辺の資料も付けた方が良いのかな。第二次公共交通再編計画の中で、33 ページから 41 ページくらいまでの解説は非常に重要だと思ったのだが。データがあるのでデータをもって。公共交通の既存事業者との連携と共存、7 ページ目のところ。これを説明するのが難しいと思って。設置された各会議

	の流れを。
道下委員	しおりの前はどこにあるの。全協か。
西川委員	総務文教の 30 年度の 1 月 23 日調査会の中にある。最終版ではないかもしれないが。
野藤委員長	多分最終版だと思う。このデータは説明に使った方が良く。民間路線は幹線なのでバス等で、少ないのは分かる。それを繋ぐものが同じような間隔で運行しているから、両方の利用率がない。八女市は幹線に繋がる形で 1 時間に 1 本ずつ運航している。尚且つエリアをまたいでやっているのが 2 か所。これを浜田市に同じようにやると利用率は八女市なみに上がるだろう。一気にには上がらないかもしれないが、登録はしてもらう。
佐々木委員	それをクリアするのは協議会が進めないことには前に進まない。
野藤委員長	公共交通等に関する組織と 7 ページに書いてある。浜田市地域公共交通会議と、浜田市地域公共交通活性化協議会、浜田市有償運送運営協議会。
佐々木委員	それぞれ違うのだろうね。
野藤委員長	それぞれの要綱は収集したが。
佐々木委員	市民のために協力してやろうという意識がない。
野藤委員長	平成 24 年 3 月に浜田市地域公共交通基本計画が策定されているが、これは 3 回くらいしか会議が開かれていない。
道下委員	やったというだけで中身はないのだろう。
佐々木委員	空論ばかりで、具体的にどうするのかと言えば「それは今から考える」と答えるのだろう。
沖田委員	問題点ばかり指摘して。
佐々木委員	八女市はそれを乗り越えた。
野藤委員長	この 3 つの組織があってもなかなか機能しない。根拠法令が違うから法令に基づいた諮問みたいな感じで。
佐々木委員	今回の再編計画も最後は、今後検討するという表現で、大事な所は決められていない。
野藤委員長	第二次再編計画はよく分析はしてあるが。
佐々木委員	その分析からどうするかがない。
野藤委員長	そう、だからその辺を提案していくしかない。

佐々木委員
野藤委員長

そこを突けば良い。行政はここまでしかできてないと。

八女市商工会議所が受けず商工会にお願いして、商工会がそういう役割を担っているが、色んな仕組み等を作っていたのは行政だと思う。

佐々木委員

63 ページに事業実施スケジュールと書いてある。青いところが検討後、実施可能なものから随時実施。最終的には今後どうするか。これが緑やブルーというのは、まだ決められてない部分。ピンクは決まった事業実施で。これは簡単なところだ。この辺の大事な所がブルーや緑だ。

野藤委員長

確かに敬老乗車券は上限がなければ皆喜ぶかもしれないが。上限がない所もある。

佐々木委員
野藤委員長

それは町村等の小さい自治体だろう。

第二次再編計画の 40 ページに、タクシーを利用したドア to ドアが出ている。この中で、利用回数を設けている所とそうでない所がある。敬老乗車券を上限なしにすれば全部解決する。しかしそれだと財政がもたない。

道下委員
野藤委員長
道下委員
西川委員
佐々木委員

それはそうだろう。もっと他に付けたら良いという話になる。

やはりある程度は行政主導で、素案を出して。

計画を作るための協議会だろう多分。

24 年の時の計画だ。計画倒れだな。

市も協議会に承認してもらっていると言えればそれで良い。後ろ盾があるのだから。

野藤委員長

そういう提案説明資料ができないかと思っている。どなたが…。

道下委員
佐々木委員
小川委員

それは委員長の責任でやらないと。

プレゼンのスペシャリストだ。

再編はきちんと決めないと。必要なインフラの一部としての認識がないと。市長の想いがないと。

佐々木委員
小川委員

言われることはすごく良い事。

どこまで予算を掛けるか。その認識がなければなかなか進まない。

野藤委員長

これがあればどこへ住もうがドア to ドアで定額で移動できるとなれば、地域が寂れることもある程度なくなる。

佐々木委員	寂れるのは寂れるが不安が解消される。
沖田委員	45 ページの「利用しやすい制度への再構築」、つらつら長い資料も答えかもしれないが、全然答えになってない。
佐々木委員	これは答えは出せない。
沖田委員	出せないだろうけど、でも「利用しやすい制度への再構築」と掲げている。
野藤委員長	本来はこれに基づいて色んな政策が年間を通じて出てくるはずだ。この再編計画の内容はすごく良いが、分析だけ。それを応援するような形で議会が先進地事例を出すのが、このたびの狙い。
佐々木委員	単純に言えば公共交通の協議会を機能させて、民間も含めて現在の公共交通をどうするのかしっかり議論して作り上げて、しかも持続可能な財源の中でできるような仕組みを作る。
野藤委員長	八女市の財源も 1 億円未満で、あれだけの利用がある。
佐々木委員	浜田市は 2 億円程度が限度だ。その中で石見交通だけでも 1 億 3 千万円費やしている。それを使うだけでも大きなことができるが残念ながら。
野藤委員長	補助金も赤字の補填だけなので変わらない。
佐々木委員	それで良しとしていること自体が大きな問題で。赤字補填をなるべく少なくして皆が喜ぶにはどうすれば良いかを一緒に考えたら良い。運転士の確保をしながら。
野藤委員長	幹線だけは充実してくれと。幹線を繋ぐ枝の部分で行政が仕組みを作る。
佐々木委員	作るのは大変だと思うが、それをしないことには。民間を含めた考え方をまずしっかり作る。執行部はやりたいと思うのだが、結局事業者には色々言われて終わる。バス 7 路線を 3 つ減らして二千数百万の補助金を削減したと。それも議会が考え方をまずしっかりして。
野藤委員長	具体的な提案すると担当者もやりやすい。
佐々木委員	議会がこう言っているから何とか業者も入って手伝ってくれ、という流れになれば。
野藤委員長	そうすればタクシー事業者も継続できるし。
永見委員	一部内での移動ではないか。実際広範囲を移動しようと思えば路線バス自体があってないようなものしか便数しかない。八女と

野藤委員長

同じように充実していったら、それから枝線を充実させると利用数は上がってくる。

永見委員

八女の場合は 1 時間に 1 便出ているので、例えば幹線をそれに合うような数にすれば、接続も良くなる。

佐々木委員

そうすれば広範囲の移動が楽になる。浜田の高速バスが 1 時間に 1 便ある。あのようになると皆の利用頻度も上がるし移動手段が良くなって利用数が上がってくるのでは。

永見委員

八女も旧町村でそれぞれやっていたが、それをチャラにして考える。色んな所で上手い事やっているから、やり方自体はそれほど難しくないと思うのだが。色んな参考事例がもうあるのだから。行政も事業者にもそういう考え方になってもらうことは誰かが仕掛けていかないと難しい。それを議会がやる。

佐々木委員

石見交通に補助金を出している、その辺りの補助金も考え方もそういう形で調整できれば。

道下委員

市民から見れば空気を運んでいるだけだと。この無駄は誰が見ても明らか。それを何とかしないといけないのが大きな課題だが、誰もなかなかそれを変えられない。そのきっかけを議会が作るべきだ。

永見委員

枝が走れば石見交通に乗って、また枝に乗り換えてどんどん増えていく。増えるにも限度はあるだろうが。

道下委員

乗り継ぎの連携ができれば。

佐々木委員

そういう協議をする場がないのだね。

協議会でしっかり戦ってもらわないと。そのきっかけを議会で作ってあげれば。

道下委員

八女は浜田と似ているのか。

野藤委員長

何となく浜田と似ている。

小川委員

それこそバス会社も 2 社あるし。八女市も最初は公共交通の担当部署を置いていた。それから人を減らさないといけないから減って。軌道に乗っているのもあって。軌道に乗せるくらいまでは専門部署がないと、今のまちづくり推進課にそれをやれと言っても、なかなか前に進まない気がする。急がせるためには課が必要ではないか。市長の考え方もあるのかもしれないが、だから議会が後押しするか。担当課を作って事業者との連携や調整をしない

	と、八女市みたいに残す路線を整備していく必要もある。
佐々木委員	その前段階の、協議会全体で公共交通をどうしていくのかを、例えば市長が、議会からこういう提案があって、何とかしないとイケない課題だしお金も考えているからと、同じ方向を向くような位置づけを誰かがつけないといけない。
野藤委員長	3つともトップは市長あるいは副市長だが。
佐々木委員	方向性が出て取り組むのに経費が出てと。
野藤委員長	その辺を議会総意でこういう提案を挙げるということは、そこをもっと頑張れ、現実に合わせてと。
沖田委員	プレゼンやる時に、要は頑張れというのもおかしい。
野藤委員長	と思う、皆はいかがか。と。
沖田委員	要するにこの再編計画に書いてある、課題はよく分析して現状課題は重々分かっている。あとは利用しやすさ等をこちらとしてどうした方が良いということ。
野藤委員長	八女市を視察した時にこういう形でやっているの、そっくりそのままというわけにはいかないが、考え方は取り入れる価値がある。
沖田委員	利用しやすい公共交通の環境整備という項目があるが、事業内容は要するにバスの時刻表を皆に分かってもらう、みたいなことばかり書いてある。これでは何の解決にもならない。47 ページ。 バス利用の環境整備も、待合室の椅子を良くしようとか。
佐々木委員	停留所まで行けないのが問題なのだが。
沖田委員	分析は良くできているが解決策が何一つないのが問題。ある意味的を射ているのかもしれないが的外れ。
佐々木委員	行政がそこで作っているようなこと。実態が分からない。
沖田委員	一番責任がない形の、ふわっとした答えしかない。
佐々木委員	責任を持たせたらできない。
沖田委員	利用しやすい環境整備に、こちらとしては重きを置きたい。
野藤委員長	利用しやすいのはドア to ドアだと言っているが、中身がない。
沖田委員	とはいえ、石見交通の路線バスを走らせるのに 1 億 2 千万円要る。残りの額でその枝を作れるかどうかとも必要だろうし、少ない残り予算で何が出来るのかという話。それとも抜本的に石見交通の路線バスを含めて全て見直そうではないかという所まで踏み

	込んでやるのか。2 つに 1 つなのかな。
野藤委員長	それは路線バスも全部見直さないといけないだろう。こういう仕組みに変えるなら。
佐々木委員	根本的に変えないと。
小川委員	会議はこの 3 つしかないのだろう。この 3 つがそういう話を自主的に進められるかと言ったら、そうはならないだろう。
野藤委員長	これは法令ができてから作った会議。
沖田委員	もしかしたら、9 号線を走っている石見交通の 40 人乗り程度のバスも、結構ボロボロかといえそうでもない。ローステップの割と良いバス。いくらこちらが抜本的にやり替えると言っても、それを見越してやらないと、25 年償還でこのバスを買った責任をどう取ってくれるのか等と言われたら何も言い返せない現実があるのかなあ。
野藤委員長	それは協議会でやるだろう。
佐々木委員	バスを新たに購入しなければいけないとかいうことで補助金を出している。
野藤委員長	結局それが営業収益の分岐点。
佐々木委員	どうしてくれるのかと言っていたら何も解決しない。今までと変わらない。
野藤委員長	これだけ数字が出ているのだが、実際の収支差額を補てんしている額が 2 億円いくら。2 億いくらの上がないといけないのに、実際は乗車率は約 22% 程度で 1 億円くらいの売上しかないので、それが毎年の補填額になっている。
沖田委員	だから 1 日 15 便出しているのを半分の 7 便にしたら、単純に半分浮く。その分 1 便に人が集中する仕組みを浜田市が作ってあげたらお互いウィンウィンの関係になる。
野藤委員長	八女で言う黒木町は金城にあたる、石央商工会だなと勝手に思った。
佐々木委員	どの場面が一番、そういう提案をして意見が上がってくるか。
野藤委員長	明日全協があるので、全協の後かな。説明の流れみたいなものを作って、こういう形でやるということで皆にお示したい。
	時間がここからここまでのので、タクシーは 24 時間ではないか。

佐々木委員
野藤委員長
佐々木委員
野藤委員長
佐々木委員
道下委員
野藤委員長
佐々木委員
野藤委員長

道下委員

西川委員
沖田委員
野藤委員長

今だって儲かってない。
タクシーは結構高い。
ギリギリでやっていると思う。
お互い持続できるような形で協力してくれと。
それで市民にとっても喜んでもらえるような。
それを提案する。
説明の流れみたいなものを。
討議する点 1、2、3 がある。
それを基にする。一字一句違わなくて良いのかなと思ったりする。
では明日。こども支援センターの件が終わってから集まろうか。
昼までかかろうか。
そこまでかからないような。
昼近くにはなるだろう。
説明の流れを記した物をお示しするという事で、お願いします。
皆のお言葉を入れて作る。
ということで、明日打合せということでお願いします。
以上で総務文教委員会を終了する。

(閉 議 11 時 13 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定より、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 野藤 薫 ⑩